

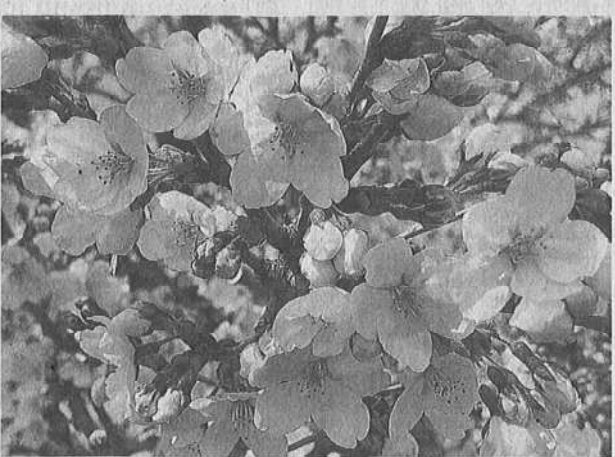
# 話を聞いて寄り添いを

## 十人十色

22

子どもたちの今

4月は子どもたちにとって入学や進級で環境や生活時間に変化が生じ、「期待と不安」が入



春になり、咲き誇る桜（草津市で） 〓鈴木さん提供

### 新年度の期待と不安

り交じる時期です。変化に不安が強い子どもは、よりストレスを抱えることになります。

小学1年生になったGちゃんは、近所の子どもたちと集団登校することになりました。前と同じ1年生の子がゆっくり歩いていたのですが、Gちゃんは後ろを歩いている上級生にランドセルをつつかれることがありました。そうした中、登校中に気分が悪くなって嘔吐おうとしてしまいうことがあり、「登校渋り」が始まりました。

彼女は初めてお母さんに登校時のことや、嘔吐してしまうのではないかという不安を口にしました。おとなしいので、前の子に「もう少し速く歩いて」とも、後ろの上級生に「前の子が遅くて」とも言えず、ひとり悩んでいたのです。大人の私た

ちにとっては「たわいもないこと」ですが、とても大きな悩みだったのです。嘔吐も心因性のもものと考えられます。

お母さんは娘の話に耳を傾け、「それで毎日学校行くのがいやだったんだね」と、抱きしめました。そしてすぐに担任の先生に相談し、しばらくは一緒に登校しました。2週間ほどたち、嘔吐せずに登校できるようになり、「みんなと行こうかな。でもお母さんも一緒にいい」と言うので、お母さんも集団登校に付き添い、歩く順番も配慮してもらいました。

お母さんがしっかり子どもの言葉に耳を傾け、一緒に登校する中で、Gちゃんは嘔吐しないと見通しがもて、登校できるようになりました。きつと近いうちに「お母さん、もうこなくて大丈夫！」と言える日がくるでしょう。

（発達支援塾アットスクール代表 鈴木正樹）